

# 経済に対する「2つの心構え」

田中 修

## はじめに

李克強総理は10月21日午後、人民大会堂においてAPEC財務大臣会議に出席した各国代表と面談し、経済の現状について短くコメントした(新華網北京電2014年10月21日)。これを受け、新華網2014年10月22日は、李克強総理の真意につき、解説を加えている。本稿ではこの2つの記事の概要を簡単に紹介する。

## 1. 李克強総理のコメント

総じて見ると、中国の1-9月期の経済運営はなお合理的区間にあり、かついくらかの積極的・深刻な傾向的変化が出現した。サービス業が主導し、新たな業態が急速に湧き起る構造的変化は更に顕著となってきた。行政の簡素化と権限の開放等の改革が誕生を促した新たな発展動力は、急速に成長している。雇用、省エネ・省資源等の指標等の指標は予想よりも好い。

同時に、外部環境は依然として複雑で変化に富み、中国経済の発展に影響を与える下振れ圧力・困難は依然小さくなく、改革措置の効果が十分に現れるにはなお一定のプロセスが必要である。

総じて言えば、我々は中国経済に対し自信に満ち溢れており、直面する試練に対しても油断はしていない。奮発して成果を挙げるという精神状態により、年間の主要任務を実現する。

## 2. 「総理の『2つの心構え』は我々に何を啓示しているのか」(新華網2014年10月22日)

李克強総理の話は、21日に公表された7-9月期のGDP数値に対する最も好い注釈である。統計によれば、1-9月期のGDP成長率は7.4%であり、うち、1-3月期は7.4%、4-6月期は7.5%、7-9月期は7.3%であった。数字から見ると、7-9月期の7.3%は2009年1-3月期以来の低さである。

顕著に反落した経済成長に対して、多くの人が中国経済年間7.5%の目標を達成できるのか疑念にあふれている。李克強総理の2つの「心」—自信に満ち溢れ、油断しない—は政府の態度を表明したものであり、世界の憂慮・疑念に回答したものである<sup>1</sup>。

GDP成長率が反映するのは国家経済全体の発展速度であり、一定程度経済の質を示して

---

<sup>1</sup> ゴチックは筆者。

いるとあってよく、我々が各政策措置を制定するために根拠を提供するものであるため、数字に注意することは必要である。

しかし、経済はそもそも複雑な総合体であり、決して GDP 成長率で単純に表現できるものではなく、数字のみに注意を払うのは偏った見方である。とりわけ、中国経済は 30 年余りの急速な発展を経て、巨大な経済総量を蓄積しており、もはや単純に速度を追求してはならず、構造の最適化と転換・グレードアップをより重視している。必要なのは、質・効率が高く、ルールに則り、持続可能な成長である。

我々が中国経済に対し自信に満ち溢れているのは、正に GDP 成長率鈍化の背後にある、いくらかの積極的・深刻で傾向的な変化を見て取っているからである。たとえば、

①サービス業が主導し、新たな業態が急速に湧き出る、構造の最適化が更に顕著となっている。

1-9 月期の第 3 次産業の付加価値が GDP に占めるウエイトは 46.7% であり、前年同期比で 1.2 ポイント上昇した。

②行政の簡素化・権限の開放等の改革が誕生を促した、新たな発展動力が急速に成長している。

今年に入り、政府が打ち出した一連の政策措置は引き続き効果を発揮しており、企業と市場の活力が不断に発揮されている。

③雇用・省エネ・省資源等の指標は予想より好い。

1-9 月期の都市新規就業増は 1000 万人を超えており、目標任務を前倒しで達成した。1-9 月期の GDP 単位当りエネルギー消費は、前年同期比で 4.6% 低下した。

④地域の構造をある程度改善をみた。

中西部地域は、一連の地域発展戦略の推進の下で、後発の優位性が引き続き発揮されている。

⑤現在、「グレードアップ版」の法に基づく治国の方策が検討されていることも、中国経済の成長の潜在的な「推進装置」となる。

我々が中国経済の直面する試練に対しても油断していないのは、我々が内外の経済情勢に対し、はっきりとした深刻な認識を有しているからである。

#### ①内部環境

相当な期間、中国経済は引き続き、成長のギアチェンジの時期、構造調整の陣痛の時期、前期の刺激政策の消化期という「3つの時期が重なる」試練に直面することとなる。

とりわけ、経済構造調整の陣痛は予想を上回り、生産能力過剰、不動産の持続的調整等の要因は、関連企業の生産と消費・投資に影響を与え、改革・イノベーション等の措置に十分な効果が現れるには、なお一定のプロセスが必要である。

#### ②外部環境

世界の経済情勢は依然として錯綜し複雑であり、国際経済の成長動力が不足しており、回復が不安定な状況は元のままであり、中国経済発展に影響を与える下振れ圧力・困難は小さくない。

物事を見るには視野が長い方がよい<sup>2</sup>。正に「中高速、構造最適化、新動力、多くの試練」という「新たな常態」に入っている中国経済からすれば、GDP 成長率の微量な増減はもはや政府の主要な注目点ではない。

正に李克強総理が 2014 年夏季ダボスフォーラムの開幕式の挨拶で述べたように、「中国経済を見るには、眼前・局部・1つの科目のみを見てはならず、傾向・全局・総合点を見なければならぬ。我々は区間コントロールという基本的考え方を堅持する。経済成長が 7.5%前後を維持さえすれば、少し高くても、少し低くても、いずれも合理的区間に属している。とりわけ見て取るべきは、安定成長は雇用を維持するためのものであり、コントロールの下限は比較的十分な雇用である」。

このため、世界が中国経済を解釈する際、速やかに新たな思考に切り換えるべきであり、もはや GDP 成長率の小数点以下に目を釘付けにすべきではなく、経済成長動力の転換と経済発展方式の転換に多く注意を払うべきである。

我々が「2つの心構え」を十分にしておき、精神状態を良好に調整しさえすれば、経済発展における新たな傾向をよく加護・誘導できるし、経済が安定の中で前進し、安定の中で質を高めるといった良好な勢いを足固めして強化でき、年間の主要な経済任務・本来の目標の実現が期待できるのである。

(10月22日記)

---

<sup>2</sup> 「風物長宜放眼量」。毛沢東が国民党左派の重鎮柳亜子に贈った詩「和柳亜子」の1節。